

昭和時代始まる

大正十五年（一九二六年）、十二月二十五日、大正天皇が崩御、元号が「昭和」に改められた。

この元号は、五経の一つである「書経」の「百姓昭明にして万邦を協和する」。即ち「百姓昭明、協和万邦」、から取ったものである。

「昭」は、あきららか、光ること、輝くこと、と言った意味があるが、この六十年の歴史は、果たして光り輝いた時代と言えるだろうか。寧ろ波瀾と不安に満ちた、「疾風怒濤」という言葉の方が充て嵌るのではないだろうか。

大正十二年九月一日に起こった、関東大震災を起点にした。この災害は、日本の首都を倒壊させたというだけでなく、その後の歴史を左右する要因を作ったのではなからうか。

打ち続いた不況の後には、軍靴の響が轟いたし、世界の各地に砲声が響き、我が国は、世界戦争の渦の中に埋没していった。

戦争が終わって、日本人はかつて経験したことのない、占領という形で新しい時代を迎えた。不安と混乱の日々の始まりである。

苦しい混乱の年代、講和条約、高度成長の六十年代を経て、昭和は「昭和」を見出したろうか。

平成の今、過ぎ去った激動の流れのなかで、経験した事を土台にして次代の未来に向かって、責任を持った「生きた現代史」を構成して、渡せば、責任の一端を果たせるのではないだろうか。

改元の詔書發布

昭和と決定する

勝ちぬく誓

みたみわれ 大君にすべてを捧げまつらん

みたみわれ すめらみくにを護りぬかん

みたみわれ 力のかぎり働きぬかん

みたみわれ 正しく明るく生きぬかん

みたみわれ この大みいくさに勝ちぬかん